

欧州景気概況(2022年1月)

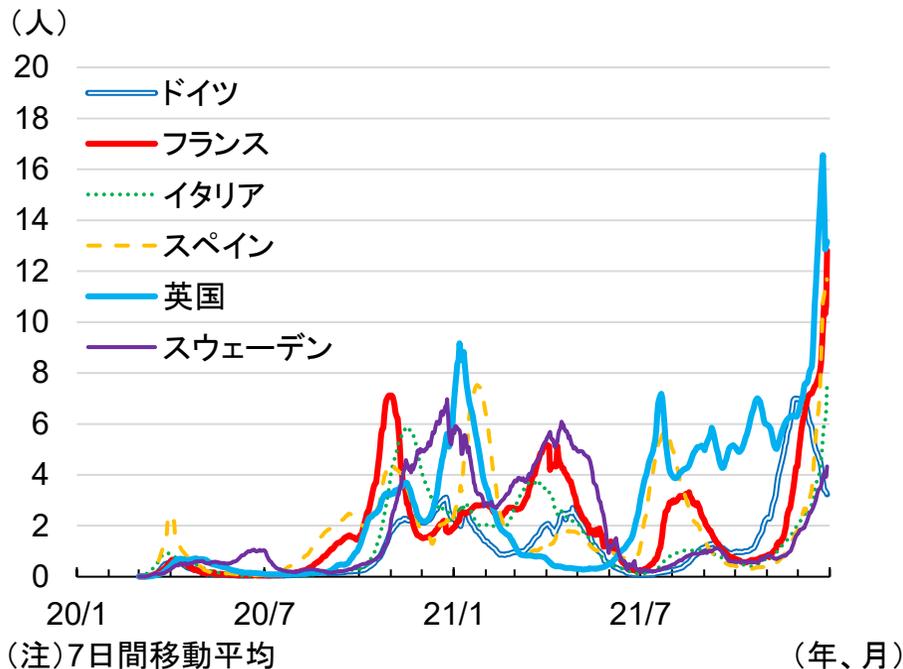
2022年1月5日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

新型コロナウイルスの新規感染者数は大陸・英国ともに急増、新たな変異株(オミクロン株)が猛威を振るっている。オーストリアやオランダが都市封鎖(ロックダウン)に踏み切るなど、各国とも行動制限を強化すると同時に、ワクチン接種の実質的な義務化に取り組んでいる。

人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	生活必需品を除き、小売店への入店、映画館など文化施設の利用などをワクチン接種完了者と回復者に限定。イベントや私会的会合も同様。2022年2月にはワクチン接種が義務化される見込み。
フランス	全ての企業で、在宅勤務が可能な職務にある全ての従業員は最低週3日、可能ならば週4日在宅勤務を行うことを義務化。1/3より大規模イベントを実質禁止。偽造防止のためワクチンパスを厳格化。
イタリア	非常事態を3月末まで延長。1/3時点で全20州のうち9州が第一段階目の行動制限(イエローゾーン)を実施。ワクチンパスの厳格化を予定。
英国	12/8にイングランドで緊急時対応策「プランB」への移行を発表。10日より映画館や劇場などでマスク着用を義務化、13日より可能な限りの在宅勤務を勧告。15日からはナイトクラブや大規模イベント参加時のワクチン接種証明または迅速抗原検査陰性証明提示を義務付け。

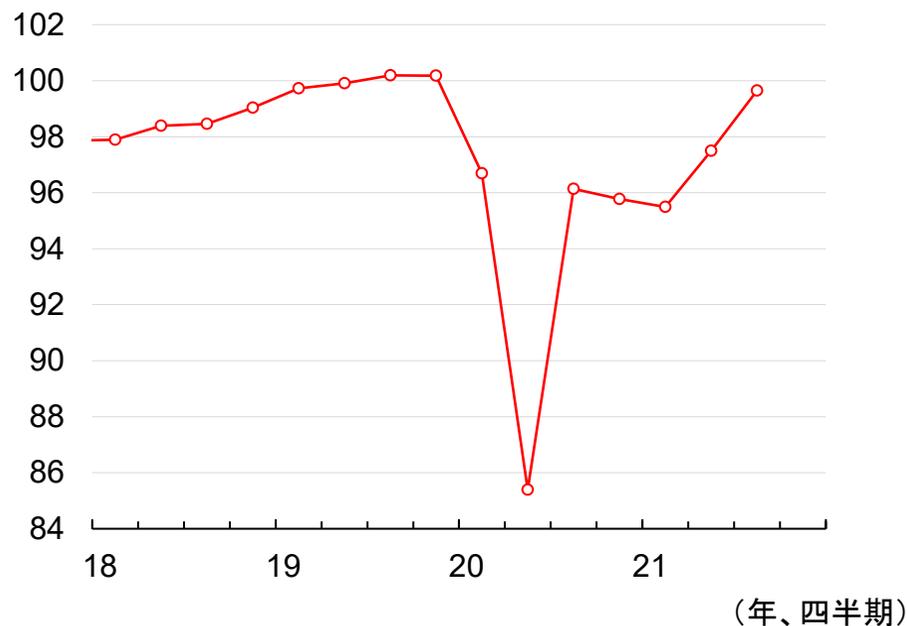
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比+2.2%と2四半期連続で増加、景気は回復している。最新11月の景況感指数は117.5と8月以来の低下、均した動きは高位で横ばいとなっている。しかし12月以降はオミクロン株とみられる新型コロナウイルスが各国で猛威を振るっており、景気の下押し圧力になっている模様。

実質GDP

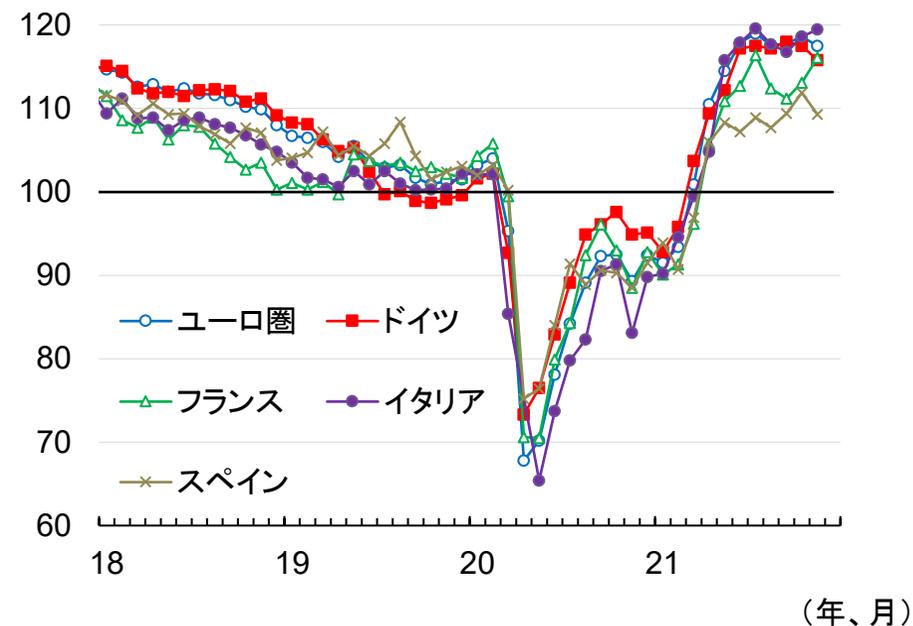
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷

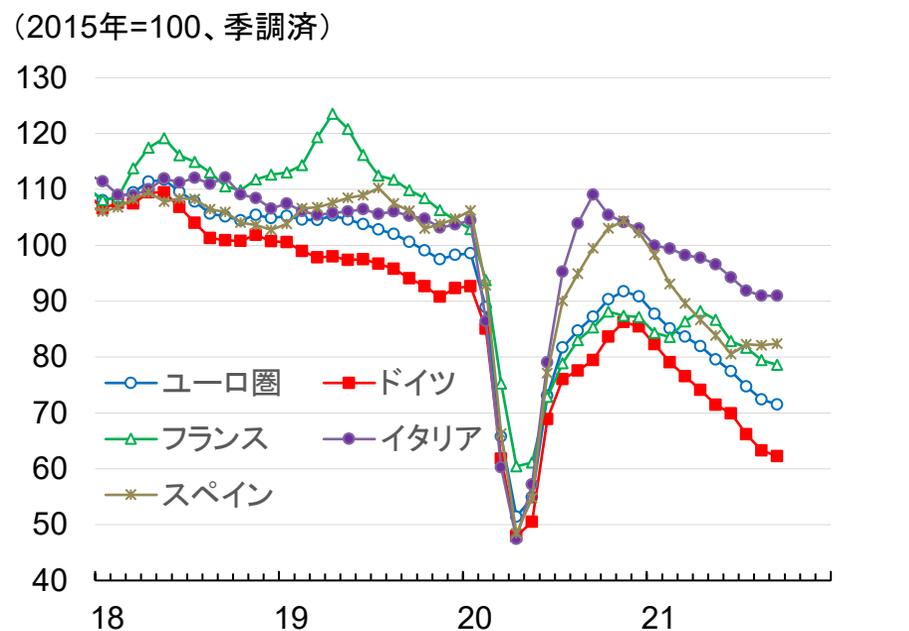
ユーロ圏の10月の鉱工業生産は前月比+1.1%と再び増加したが、均した動きは下向きとなっている。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数が下振れしており、世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっているが、一部の国では下げ止まりの動きが確認できる。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は横ばい

ユーロ圏の10月の小売数量は前月比+0.2%と再び増加も、均した動きは横ばい。インフレの加速が消費の下押し圧力になっている可能性。一方で、11月の新車販売台数は前月比+1.5%の年率780万台と再び増加、均した動きも底入れした。車種別にはEV(電気自動車)などの電動車が堅調である模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

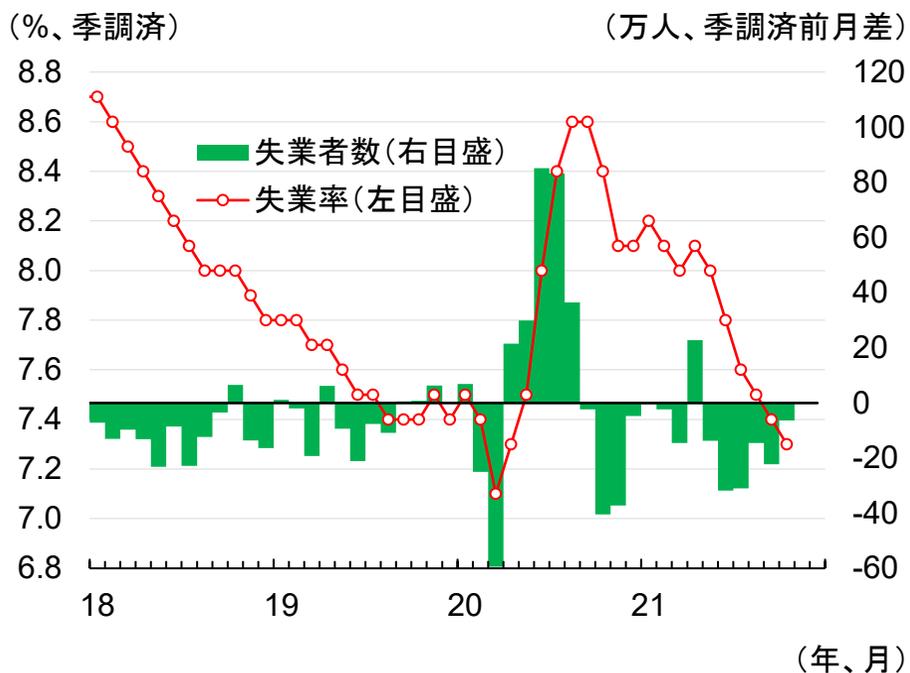


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は改善

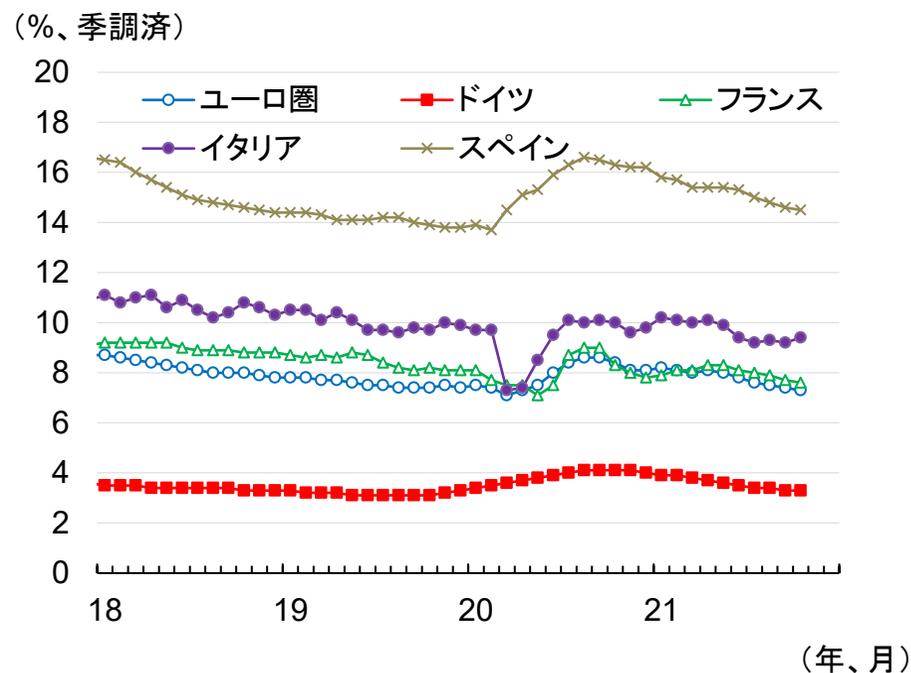
ユーロ圏の10月の雇用統計では、失業率が7.3%と6ヶ月連続で低下、失業者数は前月比6.4万人減と減少幅が再び縮小したものの、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツやイタリアでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

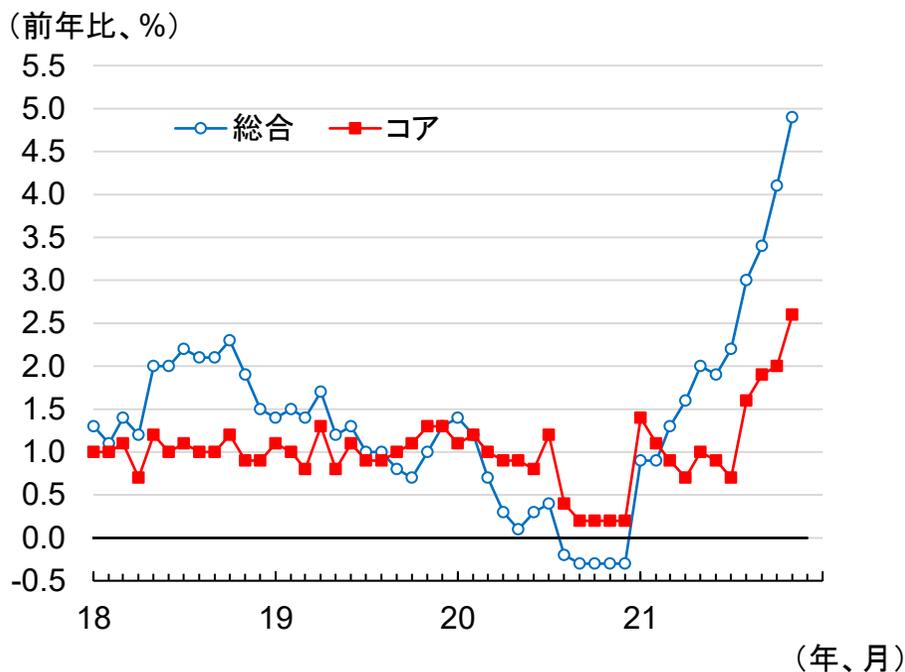


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

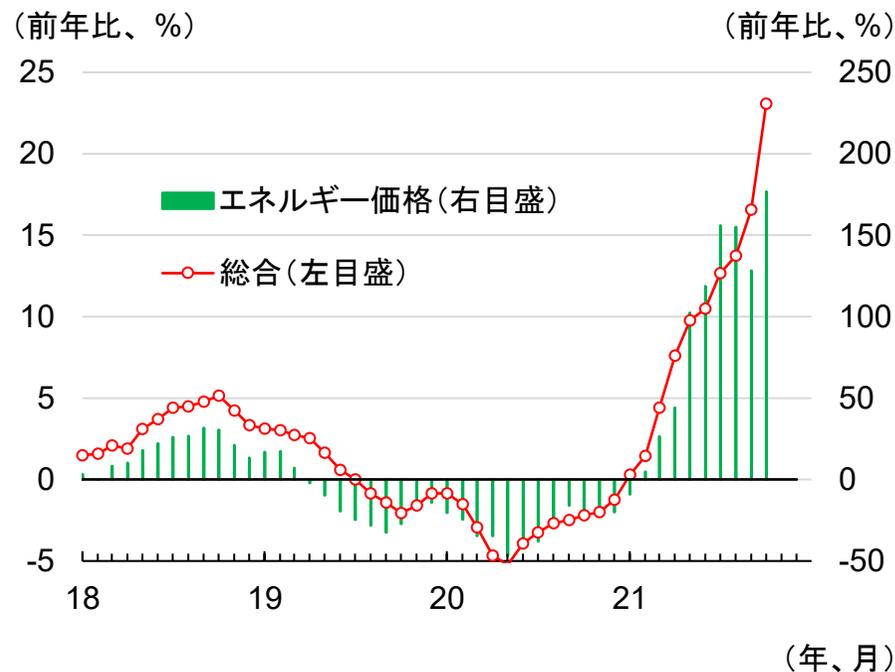
ユーロ圏の11月の消費者物価は前年比+4.9%と上昇が一段と加速、11月としては統計開始以来の高水準となった。先行指標である生産者物価は10月時点で前年比+23.1%と、伸びが一段と加速した。うちエネルギー価格は同+176.8%と伸び幅が再び拡大した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは22年3月で危機対応策を終了へ

ECBは12月16日の理事会で、危機対応策であるパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)を2022年3月で終了すると決定した。4-6月期は通常の資産購入プログラム(APP)を現在の200億ユーロから400億ユーロに増額、7-9月期は300億ユーロに減額、10月以降は200億ユーロに戻る予定。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要

政策金利の据え置き

主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。

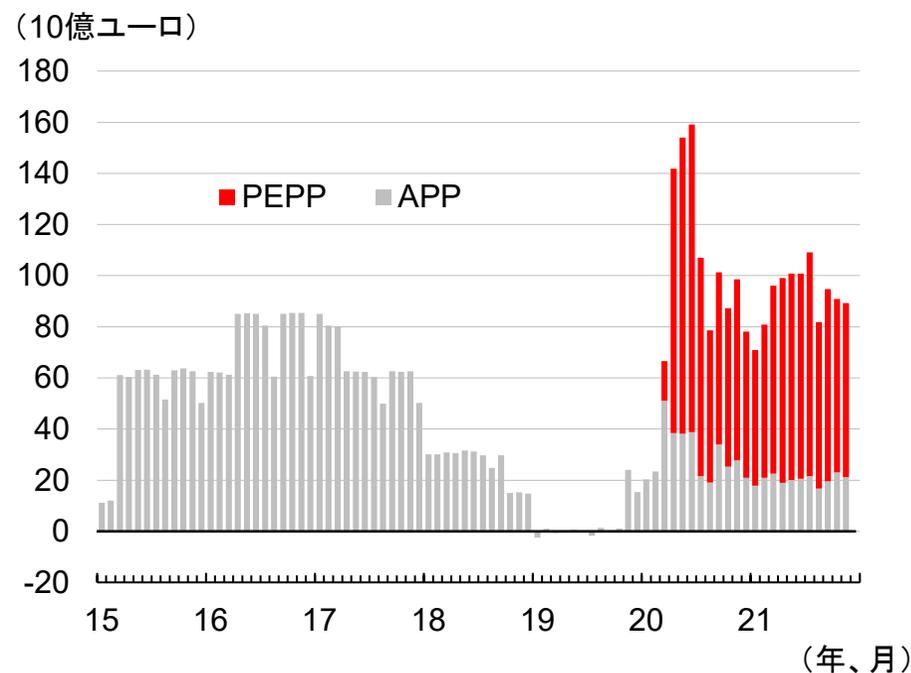
資産購入策の修正

PEPPを2022年3月に終了、再投資は2023年末から2024年末まで延長

現在月200億ユーロで実施しているAPPを2022年4-6月期は月額400億ユーロに増額。7-9月期は300億ユーロに減額した後、10月以降は利上げが肯定される環境まで200億ユーロで購入を継続。再投資は最初の利上げ後も実施する方針。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

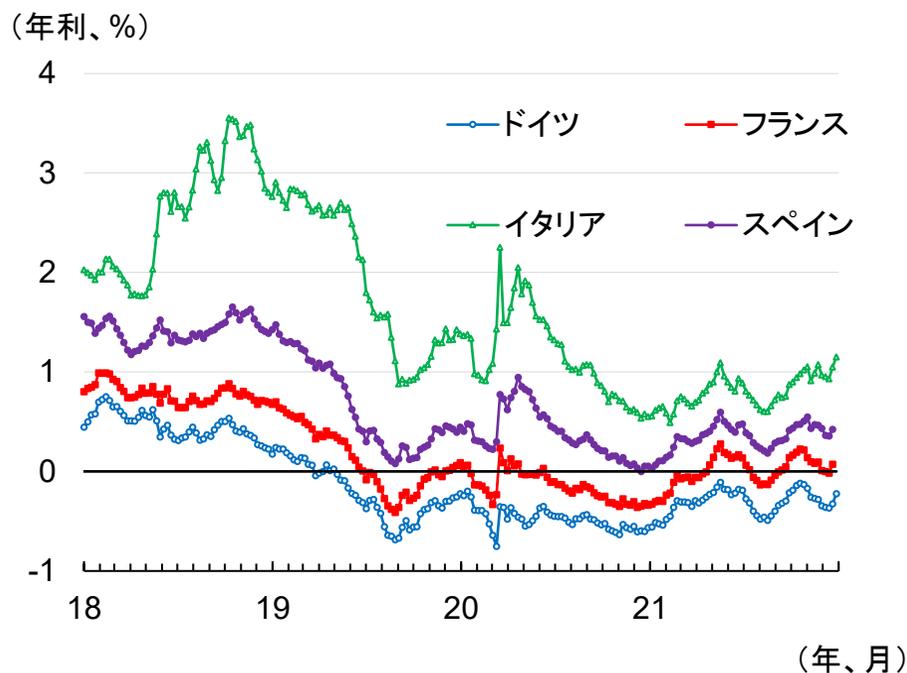


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落後に上昇

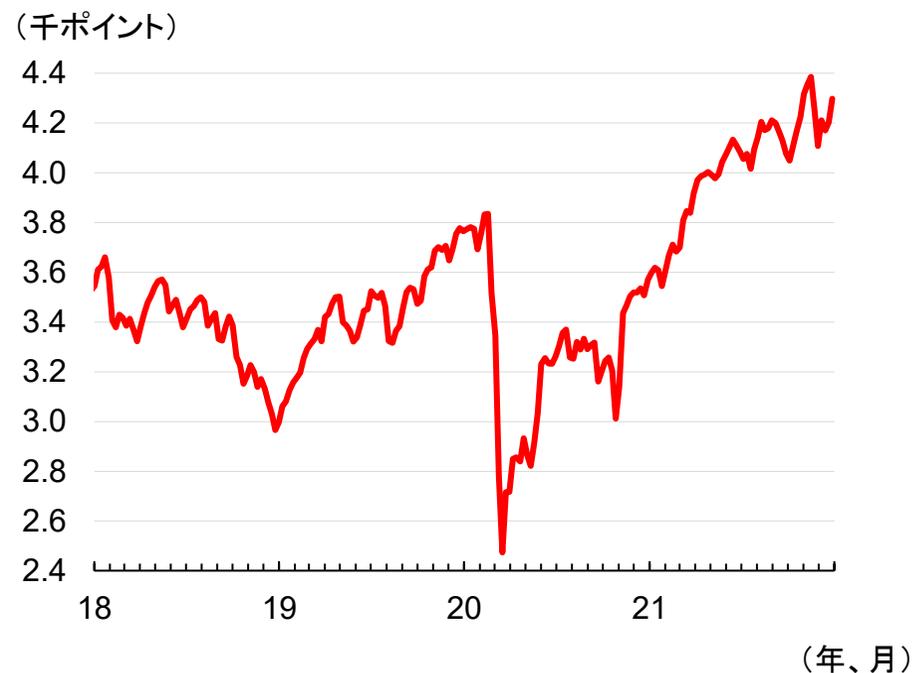
12月のユーロ圏の長期金利は上昇した。米連銀(FRB)が資産購入の段階的減額(テーパリング)に着手したことや、ECBが22年3月に危機対応策(PEPP)を終えると決定したことなどが金利を押し上げた。一方、株価(Eurostoxx50)は下落後に上昇した。年末の薄商いの中で米株の上昇にけん引された。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

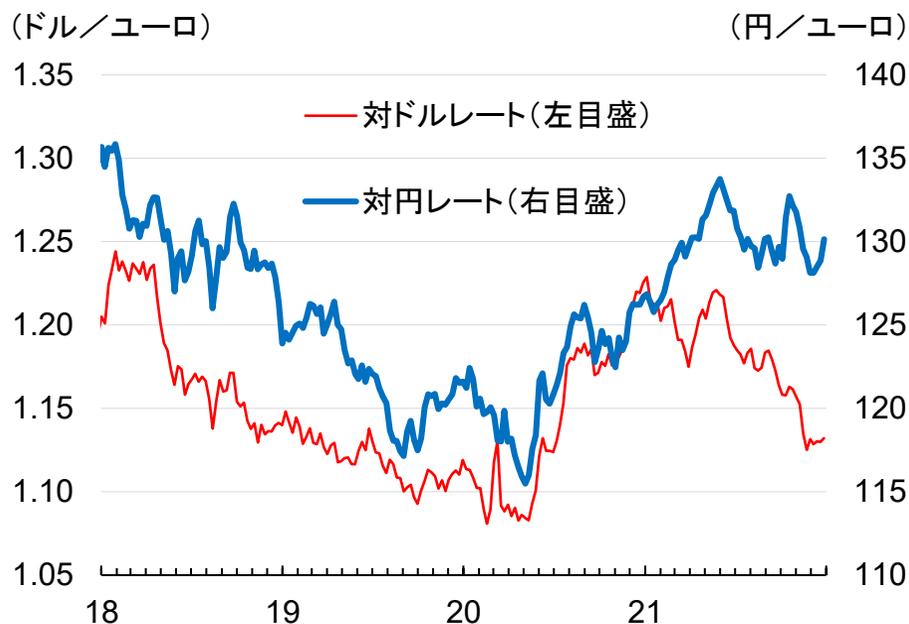


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルで横ばい、対円でユーロ高

12月のユーロ相場は対ドルで横ばい、対円でユーロ高となった。米FRBがテーパリングに着手した一方で、ECBもPEPPを終了させることなどが意識され、ユーロは対ドルで横ばいとなった。一方、円安ドル高の流れを受けてユーロは対円だと上昇した。国際収支は貿易収支の黒字が定着、実需面からのユーロ買い圧力はしっかりしている。

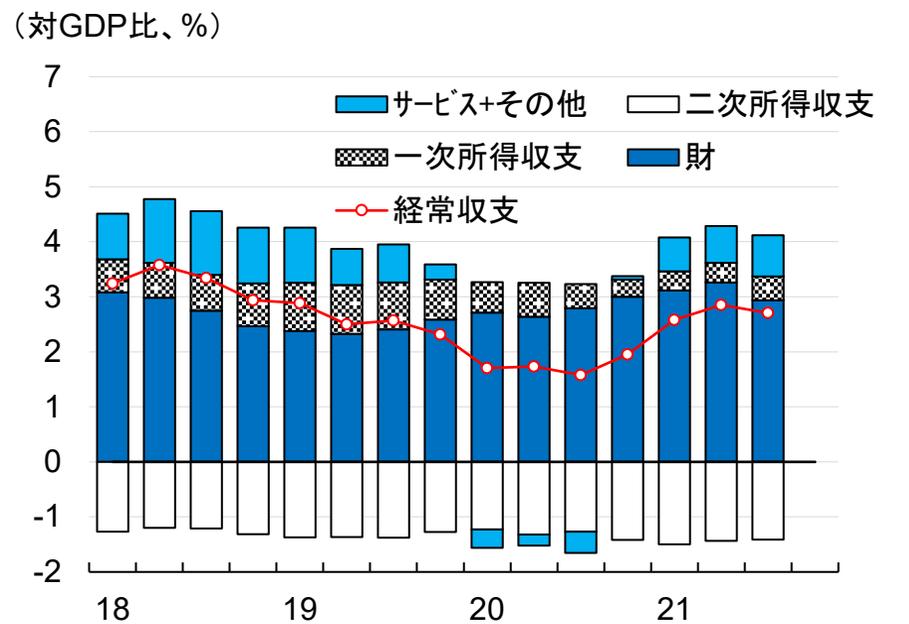
ユーロ相場



(注) 週次レート
(出所) ECB

(年、月)

国際収支



(出所) ECB

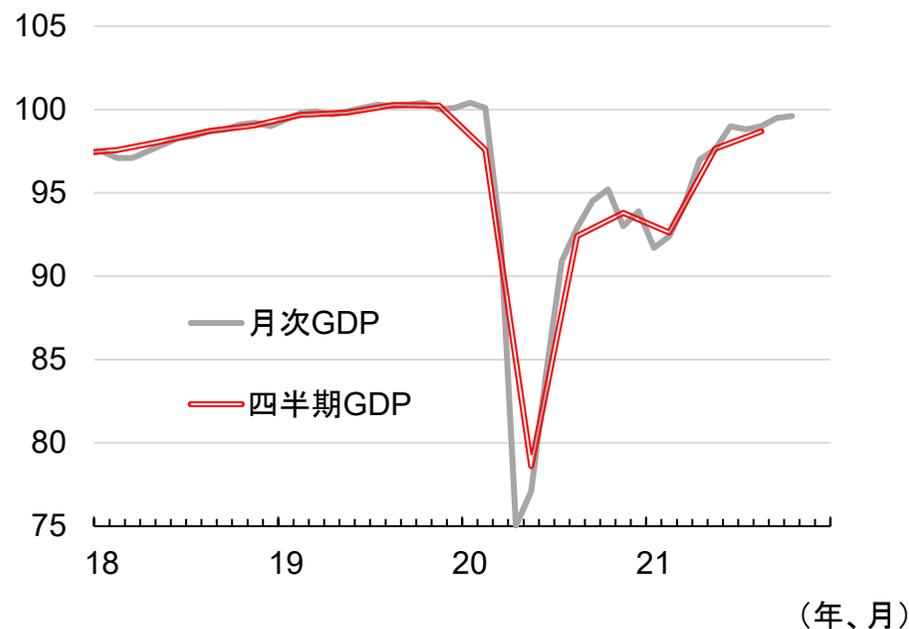
(年、四半期)

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比+1.3%と、4-6月期(同+5.5%)から伸びが鈍化した。一方で、最新の10月の月次GDPは前月比+0.1%と9月(同+0.5%)から増勢が失速した。さらに英国では年末にかけてオミクロン株の流行に伴い新型コロナウイルスの感染者が急増、景気が下押しされている模様である。

実質GDP

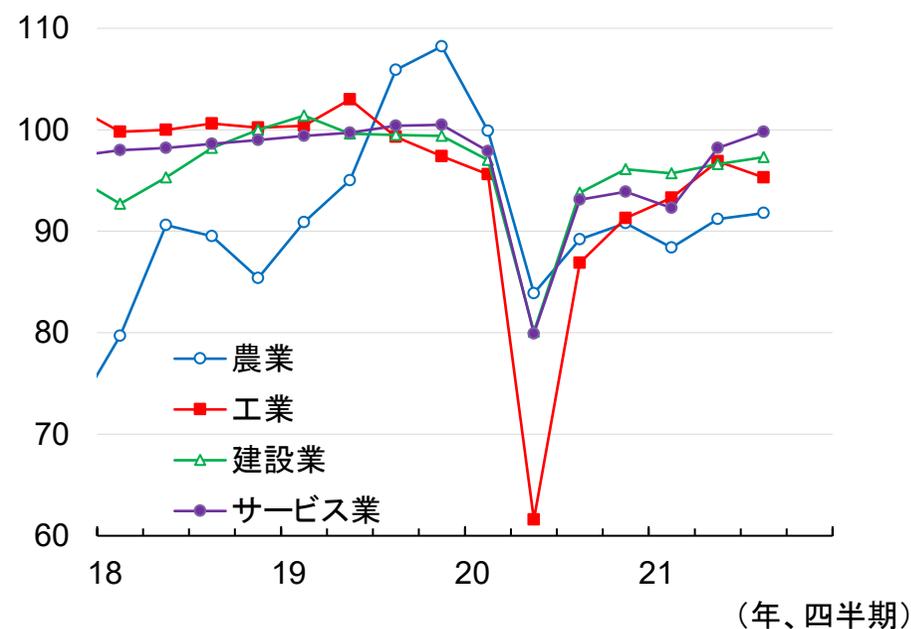
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

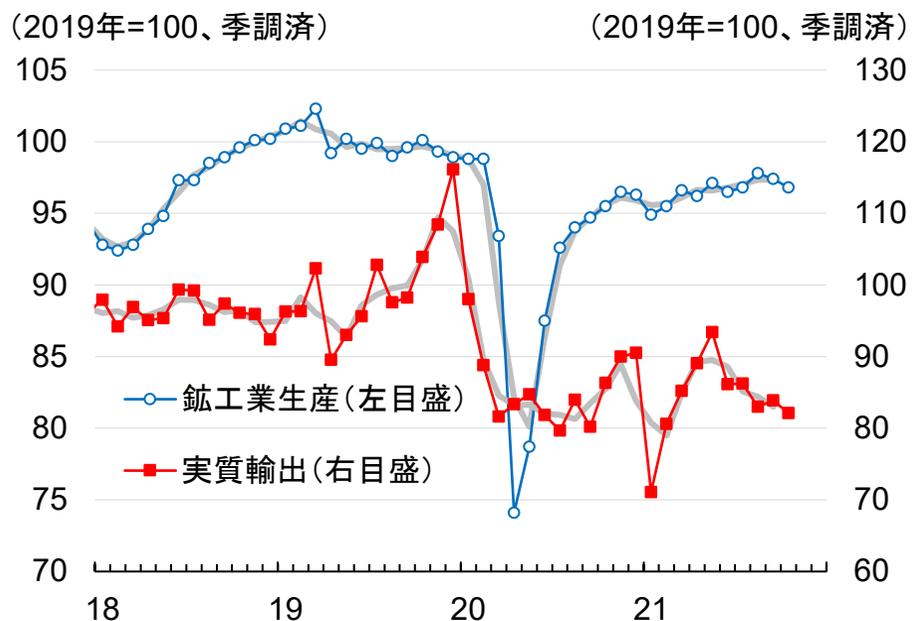


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は頭打ち

英国の10月の鉱工業生産は前月比-0.6%と2ヶ月連続で減少、均した動きは頭打ちとなった。また同月の実質輸出も同-2.1%と再び減少、均した動きも下向きと低迷している。一方で、10月のサービス生産は前月比+0.3%と9月(同+0.7%)から増勢が鈍化した^が、均した動きは上向きと回復が続く。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は回復

英国の11月の小売数量(除く石油)は前月比+1.0%と2ヶ月連続で増加、均した動きも回復に転じた。一方、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+1.7%(11.6万台)と5ヶ月ぶりに前年水準を上回ったが、均した動きは前年比2割減程度のマイナス幅が定着している。

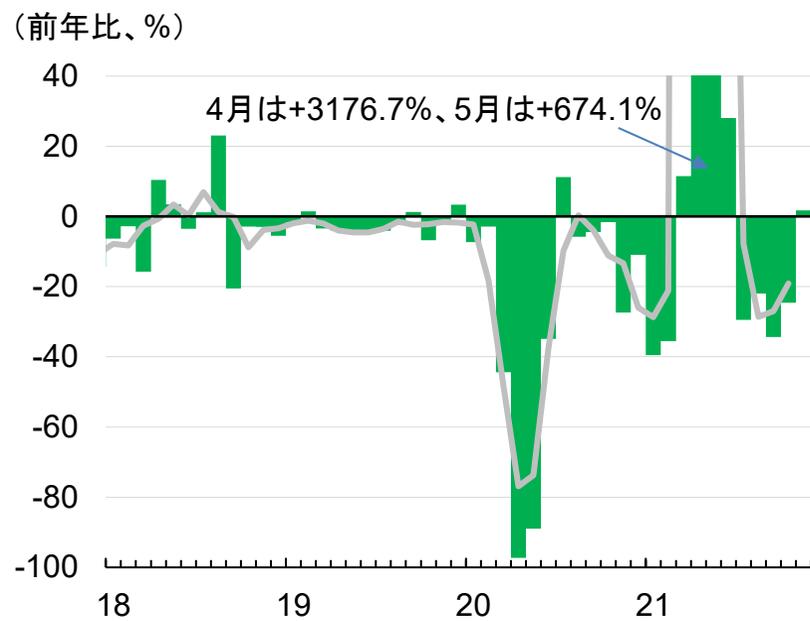
小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

新車販売台数(乗用車)



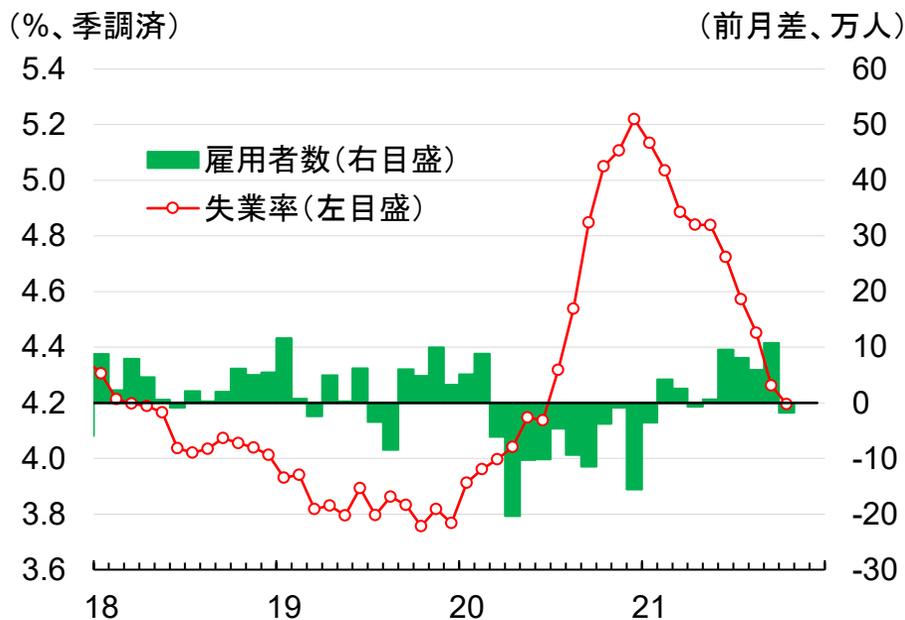
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善

英国の10月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.2%に低下した一方で雇用者数が前月比1.8万人減となるなどまちまちの内容であったが、雇用情勢は改善基調を維持していると判断される。賃金の増勢は名目ベースだと引き続きコロナ前より高いが、インフレの影響を除いた実質ベースでは伸びの鈍化が鮮明である。

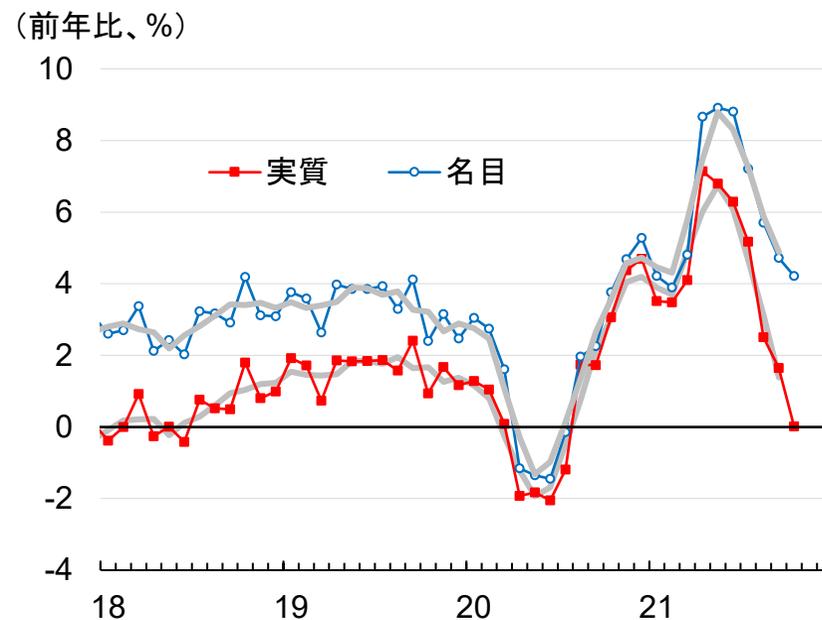
雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所)ONS

(年、月)

平均賃金(週給)



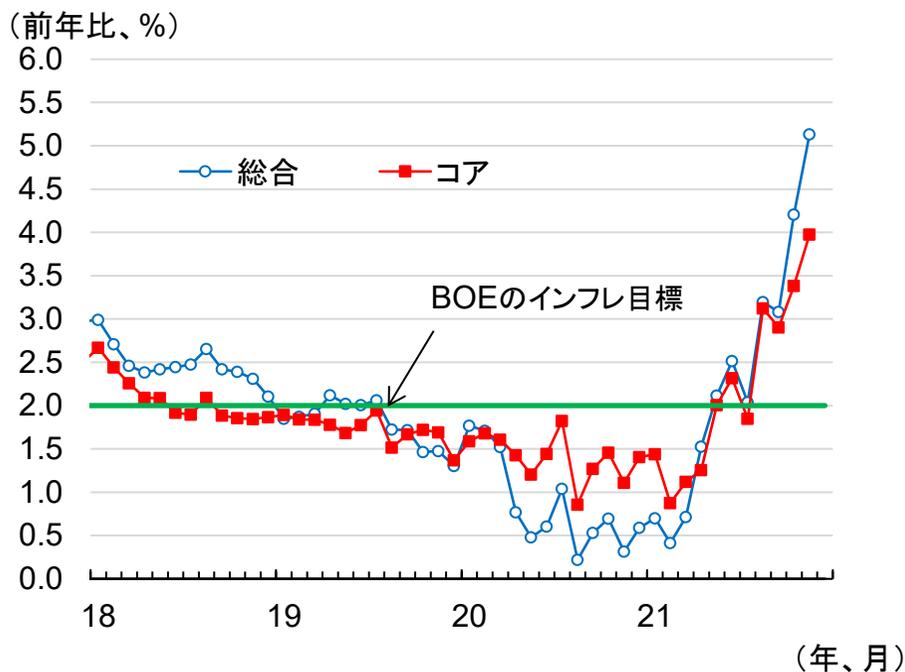
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

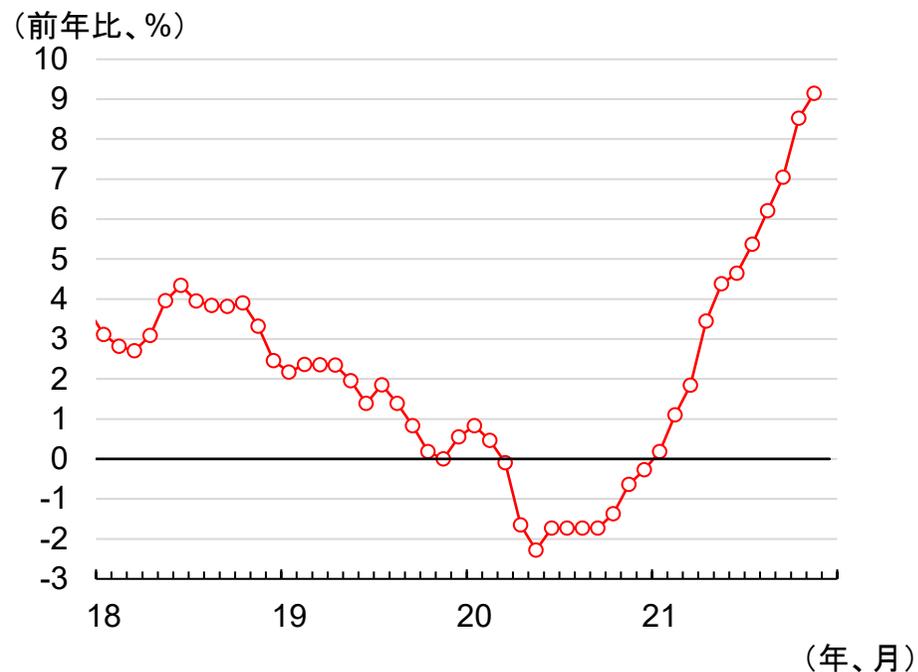
英国の11月の消費者物価は総合指数ベースで前年比+5.1%と伸びの加速が続いており、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。先行指標である生産者物価も11月は前年比+9.1%と伸び幅が拡大、今後もインフレが加速することを窺わせる。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

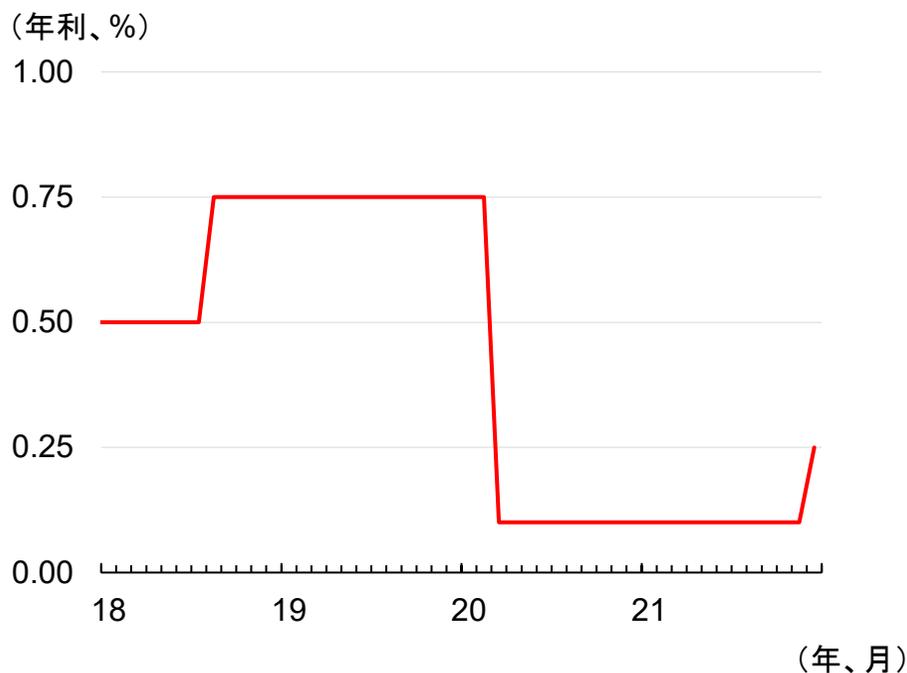


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは想定外の利上げへ

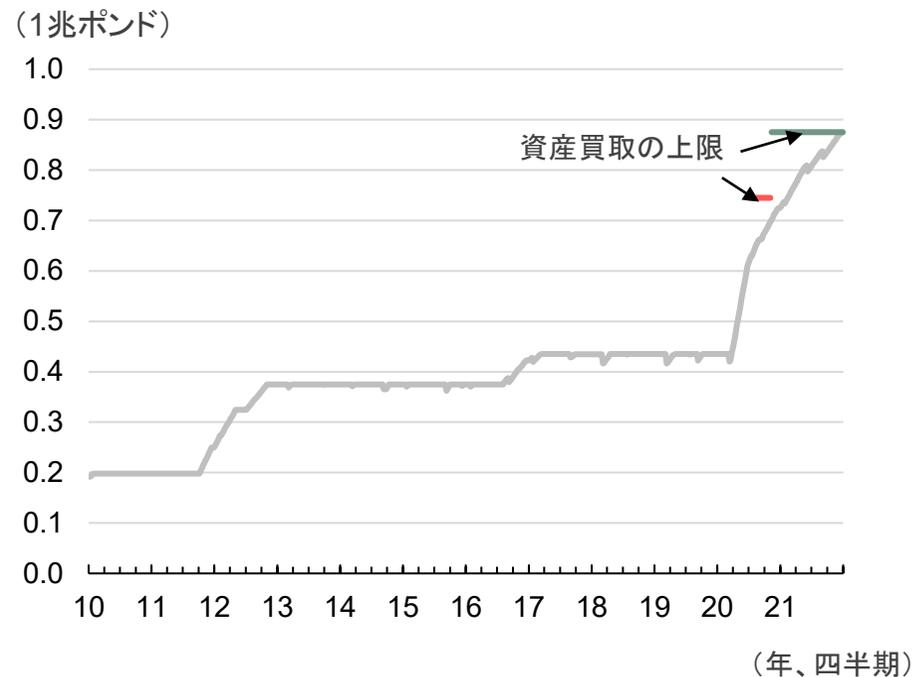
イングランド銀行(BOE)は12月16日の金融政策委員会(MPC)で想定外の利上げを行い、政策金利(バンクレート)を年0.10%から0.25%に引き上げた。資産購入策に関しては、11月末で既往の上限枠(国債は8,750億ポンド、社債は200億ポンド)に達しており、バランスシート維持の局面に入っている。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

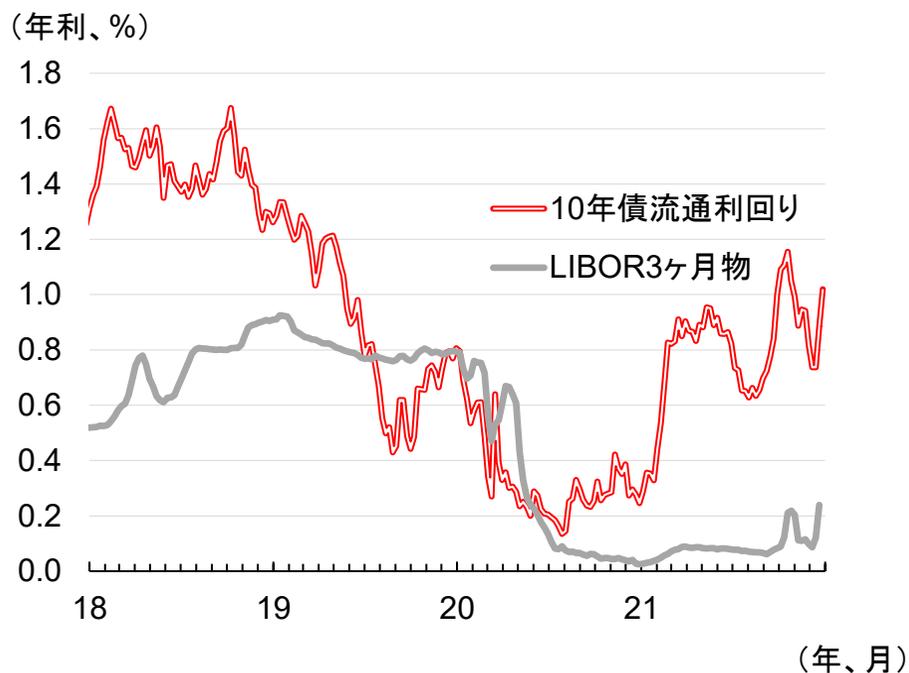


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

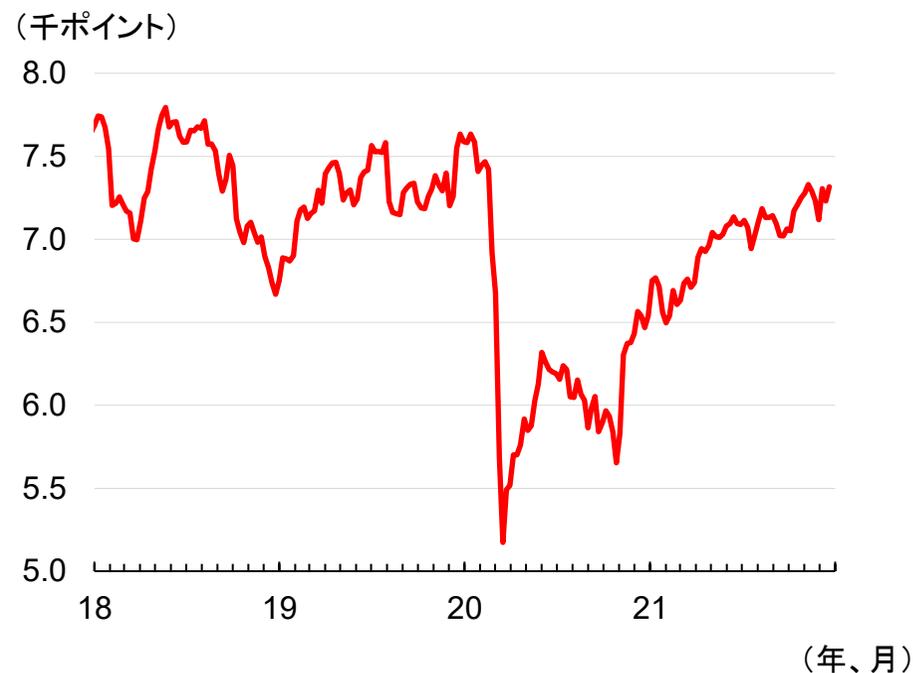
12月の英国の長期金利は上昇した。米連銀(FRB)が資産購入の段階的減額(テーパリング)に臨んでいることに加えて、BOEが予想外の利上げを実施したことが金利の上昇圧力になった。一方で、株価(FT100指数)も上昇した。原油価格の回復が鉱山株を押し上げたほか、金利の上昇が銀行株の買い材料になった。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)

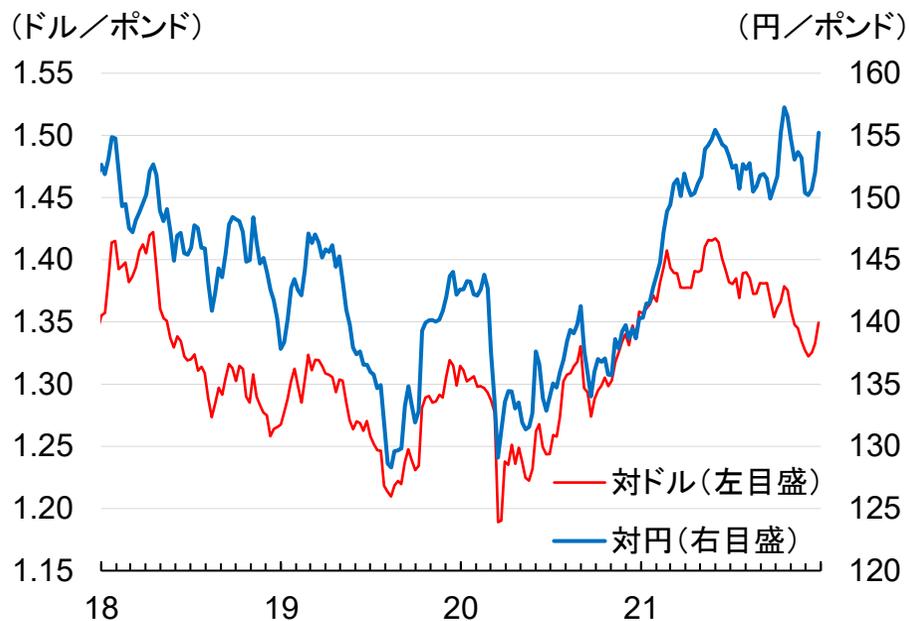


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド高

12月のポンド相場は対ドル・対円で上昇した。BOEが12月のMPCで予想外の利上げを実施したことが好感され、11月MPCで利上げを見送ったことによる失望売りを取り戻した。国際収支は貿易収支の赤字が拡大しており、実需面からのポンド買い圧力は弱まっていると判断される。

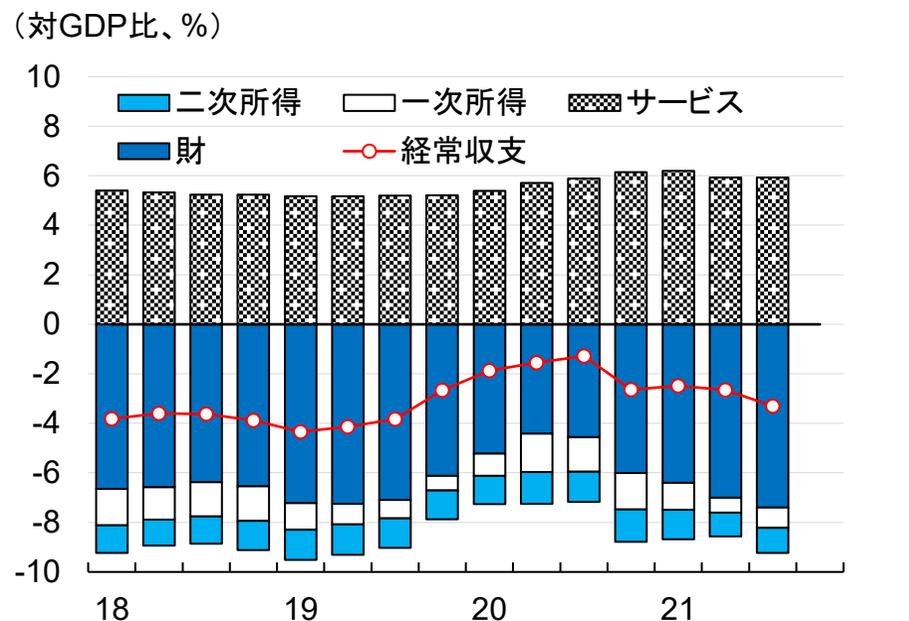
ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

(年、月)

国際収支



(出所)ONS

(年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください